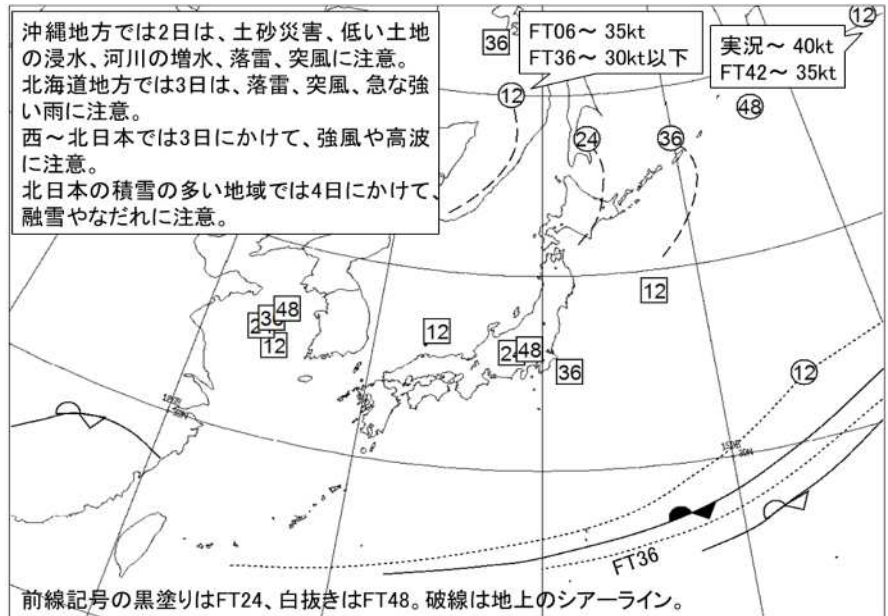


1. 実況上の着目点

- ① カムチャツカの東の500hPa 5160m以下の寒冷渦に対応する低気圧から、前線が日本の東や日本の南を通り沖縄の南にのびている。この前線上の日本の東には、低気圧があって東北東進。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島周辺では、雷を検知し局地的に非常に激しい雨を解析。
- ② 500hPa5280m 以下の寒冷渦に対応する低気圧がアムール川下流付近にあって、南東進。
- ③ 三陸沖と黄海に中心を持つ高気圧があって、ともに東へ移動している。



主要じょう乱解説図

これらの高気圧と日本の東の低気圧やアムール川下流の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、北～東日本では風がやや強く吹き、波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の日本の東の低気圧は2日は東北東進し、日本の東へ進む。また低気圧からのびる前線は、2日は沖縄の南にのびる。低気圧や前線近傍では850hPa θ e 336K 以上の下層暖湿気が流入して、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。沖縄地方では2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。
- ② 1項③の寒冷渦に対応する低気圧は、2日夜には沿海州付近へ進み、3日夜には千島近海へ進む。また、この低気圧からのびるシアーラインが3日に北海道地方を通過する。500 hPa-27℃以下の寒気と低気圧やシアーラインに向かって流入する850hPa300K 以上の下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる。北海道地方では3日は、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ③ 2項①の日本の東から日本の東へ進む低気圧や前線および2項②の低気圧と黄海及び本州付近に中心を持つ高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、西～北日本では、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。西～北日本では3日にかけて、強風や高波に注意。
- ④ 西～東日本、東北地方では4日にかけて、広く高気圧に覆われておおむね晴れる。4日は、850hPaの気温が平年より5℃程度高くなり、気温が上昇し真夏日となる所もある。暑さに慣れていない時期のため、熱中症などの健康管理に注意。また、北日本の積雪の多い地域では4日にかけて、融雪やなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報と根拠】①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：北海道・関東・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。